

A. 日時 2011 年 7 月 28 日（木）17 時 00 分～19 時 00 分

B. 場所 建築学会会議室

C. 出席者 安藤 啓，岩本毅，岡野利行，坂本慎一，田端 淳，中澤真司，羽入敏樹，濱田幸雄，平松友孝，平光厚雄，宮島 徹，吉村純一，横山 栄（敬称略）

欠席者 井上勝夫，大嶋拓也，佐久間哲哉（敬称略）

D. 提出資料

2011 年度第 2 回音環境運営委員会議事次第

No. 2-0 2011 年度 第 1 回音環境運営委員会議事録（案）

No. 2-1 音環境分野研究の最前線と分野連携（濱田幸雄）

No. 2-2-1 環境工学分野における震災対応の提言（佐土原聡）

No. 2-2-2 同上（濱田幸雄）

No. 2-3 日本建築学会刊行規定の厳守と学会規準・仕様書のあり方検討委員会報告書（答申）に沿った運用に関する要望書（案）

E. 審議事項

1. 前回議事録の確認

5. 小委員会・WG 活動報告の集合住宅の遮音性能水準検討小委員会の項，「5 月 20 日に実建物内での室内発生音調査を実施した」は実建物内・・・以下を「小委員会を開催」に訂正する。

上記を訂正し，前回議事録は承認された。

2. AIJ 研究懇談会

原稿の照会

発表★ 8/23 13：30～ 性能規準の OS と重なる

下記について当日訂正する

図 1 音響指標測定研究 WG、スピーチプライバシー研究 WG は室内音響小委員会の下

音声伝送 WG はなし

数値解析小委に音響数値解析ソフトウェア調査開発 WG を今年から設置している

3. 震災対応

これまでに何度か調査がなされており，音環境運営委員会としては資料 2-2-2 の 2 ページ目の内容を佐土原委員長に提出済である。今回は決められたフォーマットにこれを当てはめて提出したい。

・直接的被害のうち既存はホールの浮構造や天井の崩落の問題、仮説は避難所の音環境改善が相当する

- ・間接的被害としては、節電で窓を開けるようになって騒音問題が生じた例程度か？既存も新築もある。
- 関係する程度？
- ・現案は、避難所における音環境改善、浮き床、浮き天井の遮音設計指針の作成、避難所機能を有する公共施設の音環境設計手法、の3点を選んでいる。ライフスタイルに関する提案の代わりに防災無線の品質向上を入れて提出したい。30日に提出する。

4. 各小委員会・WGの活動報告

① 固体音小委員会（中澤主査）

6/24（第2回）：2005年11月に収集した子供の跳びはね走り回りによる床衝撃音とJIS衝撃源（タイヤ、ボール）の衝撃音の関係、JIS衝撃源の位置づけを審議した。A特性評価に関してダイレクトLAとバンド合成LAの関係を議論した。

7/24（第3回）：これまでの検討結果の確認・見直しをおこなった。

WGは8/5に日本ゲッツナーの方を招いて海外の鉄道固体音対策と評価法について伺う予定。

② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会（岩本主査）

7/22：室内発生騒音の測定事例の文献調査を開始、発生騒音の測定事例のまとめを目指して調査を開始、自治体の条例調査を進めている。

③ 建築物音響測定法小委員会（宮島主査）

7/22（第2回）：フランキングの検討については、事例集めのアンケート調査を進めている。固体音小委、集合住宅の遮音性能小委、騒音制御工学会の遮音分科会に協力をお願いする予定。実騒音によるサッシの測定法については、8月上旬に現場測定を予定している。その他、オーガナイズドセッションの準備を進めている。

④ 室内音響小委員会（羽入主査）

7/4（第1回）：5/13シンポジウム（盛況）の総括及び音響設計事例集の作成に向けてフォーマット決めをおこなった。次回は9月末か10月初めに開催予定。

スピーチプライバシ研究WG：サウンドマスキング導入事例の見学（6/16クオール薬局、7/19グローリー工業）をおこなった。

音響指標測定研究WG（3/31、4/26、6/3開催）：音響指標のベンチマーク作成に向けて委員の保有プログラムのクロスチェックを実施中。建築学会で作成したサウンドライブラリのIRを利用している。

⑤ 音響数値解析小委員会（坂本主査）

4/11 第1回開催：今季の方針を討議：昨年発刊した書籍の普及活動をおこなっていく。講習会は開催できなかったが、今後じっくりやる予定。主に応用事例を紹介するシンポ or 講習会を予定している。時間があればDVDや動画の作成も検討する。

音響数値解析ソフトウェア調査開発WG：若手奨励の特別研究委員会（大嶋主査）の活動を引き継いで4月に活動を開始した。前年までにまとめた報告書を一般の出版社から書籍として出版する予定。次回は9月末か10月初めに開催予定。

⇒WGの出版については学会の手続きを確認する必要があるため、濱田主査から大嶋先生に状況を確認する。

⑥ 音環境規準検討小委員会（平松主査）

環境工学本委員会の方針に従って、7年前に音環境運営委員会傘下にアカスタWG（佐久間主査）が設置され、遮音性能規準について検討した。その後の企画・広報WG（安藤主査）で遮音規準の具体化を検討してきた。関連動向として、7/8に木村、安岡、大川、井上、4氏で赤本の改定を決めたという動きがあり、7/14に第4回小委員会を開催して対応を協議した。7/27の環境規準小委員会親委員会にて、11月の小委員会に提案して来年に刊行委員会立ち上げたいと手を挙げた。

8/5に再度小委員会を招集して方針を決定したい。

⑦ 企画・広報WG（峯村主査）

6/9：研究動向の把握について、文献ピックアップ及び分類・分野分けほぼ終了し、分担者による差を確認している。今後、結果の公表の仕方などについて検討が必要である。

住まい方マニュアルの検討は、典型的なケースを時系列や対象者を軸にマッピングをしており、第3者にわかりやすい表現を検討した上で審議をお願いしたい。次回は8/11を予定。

5. 他学会・研究会の予定

建築音響研究会

8月2日：京都

10月11日：東京 キャンパスイノベーションセンター

11月4日：音バリアフリー調音委と共催、震災関係の話題

騒音・振動研

特に情報なし

インターノイズ

参加申し込みの話よろしく申し上げます。現在、日本人400人見込みのところ250人。

6. その他

- ・資料2-3は今後必要が生じた場合に提出を検討する。
- ・若手研究者を対象とした建築学会奨励賞の公募が建築雑誌に出る予定なので、応募条件を確認しながら適切な方に応募して頂けるようご配慮ください（坂本）。

7. 次回予定

- ・第3回音環境運営委員会は9/27（火）17時から開催する。